

---

# 死神

？ ？ ？

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死神

### 【Nコード】

N5773L

### 【作者名】

???

### 【あらすじ】

2050年 2月2日西南高校に通う2年生 水月 四海 すいげつ しかい は普通の高校生よりは少しモテていた。ある時、道端を歩いていると、遠くからはよく分からないが、何かが落ちていた。近ずいてみると、それは何かの玉だった。四海はそれを拾おうとした、その瞬間！！ 玉はどこかに行ったしまった。四海は何事もなかったように家に帰った・・・

はじまり・・・

四海「ただいま。」

美里「お帰りなさい。」

美里と言うのは、俺の母さんである。

母さん「四海 お風呂に入っちゃいなさい。」

四海「へーい」

このとおり、俺に父親はいない。俺が小学2年生の時に海外に行つたきり、帰ってこない。

四海「ところで、母さん今日の晩飯は？」

母さん「ご飯に唐揚げと味噌汁など、その他もろもろです！」

四海「了解」

四海が着替えを取りに自分の部屋に入ろうとしたとき、

四海「あつ！学校に忘れ物した！！」

母さん「はあゝさっさと取りに行っちゃいなさい」

四海「へーい」

四海は急いで家を飛び出した。四海が一生懸命走っていると、四海の横をものすごいスピードで何かが通り過ぎて行いった。

四海「何だ あれは??」

四海「まあ いいや」

つといいながら、四海は急いだ。ようやく四海は自分の学校の前に着いた。急いで、自分の教室に走っていった。・・・ガラ！ガラ！ガラ！ 教室のドアをあけると、そこには・・・何かうごめく者がいた。

四海「なにをしている？」

？「ん？」

そいつは低い声をしていて、身長は俺より少し高くて黒っぽいマン  
トみたいなやつを羽織っていた。

四海「お前誰だ!？」

？「我が名は、ステイル」

四海「ステイル？・・・フフ・・・ハハハハハ 面しれゝ名前」

ステイルは表情を変えて言った。

ステイル「なぬ！！」

四海「まあまあ、そんなに怒んなって」

四海「ん？なんだそれ？」

四海はステイルの持つている物に気がついた。

ステイル「お前これが見えるのか??」

四海「あゝはつきり見えるぜ」

四海「てゆうか、それここに来る前に俺の横を通り過ぎたやつだ」

ステイル「そうだったのか、これは我が国に代々伝わる宝玉

スター」

四海「ふゝん」

ステイル「【ふゝん】ってそれだけか？何か質問とか疑問とかないのか？」

四海「じゃあ、何をするための 宝玉ですか？」

ステイル「これは 我が国と人間世界を繋ぐための物である」

四海「そうゆうことか、だったらそれがあればお前たちの世界にいけるんだよな？」

ステイル「まあそうゆうことだな」

四海「よし 分かった」

そう言くと、四海はステイルから宝玉を奪った。・・・その瞬間！  
宝玉から強い光が放たれ、四海の体を包んだ。そして、四海は倒れた・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5773/>

---

死神

2010年10月11日01時42分発行